

## 方言の大切さ

義太夫協会会長 波多一索

義太夫協会会報  
第96号  
平成25年1月1日  
一般社団法人 義太夫協会 発行  
〒104-0045 東京都中央区築地  
4-1-1 東劇ビル17F  
Tel 03(3541)5471  
Fax 03(3546)2334  
<http://www.gidayu.or.jp>

新年を迎え、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

昨春秋には、竹本駒之助師が神奈川文化賞を、竹本土佐子師が旭日双光賞を受けられ、心よりお祝いを申し上げます。ご自愛專一に今後とも私どもをご教導下さいますようお願いいたします。

ところで、私は三代続いた東京生まれの東京育ちで、「髪結び」さんを「カミイ」さんと言えども、いまだに浄瑠璃の上方ナマリには苦勞致します。

そんな私が「秋田の女」何してきれいだと言っただけやぼだんす 小野の小町の生れ在所お前はん知らねのげ」（秋田民謡）といった方言の楽しさがなるとか分かるようになったのは、民謡の仕事を通してでした。

たまたま昨年、奄美大島の民謡大会にお招き頂き、地元の哀調に満ちた島唄を聞きなが

ら、歌のメロディーは理解出来ても、肝心な歌詞が奄美方言で正確に理解出来ず、もしそれが分かればどんなに楽しいだろうと悔しい思いを致しました。

三隅治雄氏のご本に「原日本・沖縄の民俗と芸能史」があり、さきの太平洋戦争で多数の犠牲者をだした沖縄の方々が、戦後一面の焼け野原の中から、島唄を歌う事によって見事に立ち直られて行く様子が感動的に記されてあります。

「町々村々の掘立小屋の中から、（略）親兄弟の消息もわからず、食料もなく、ああ死にたい……と思った時、だれかがそばでブリキ（で作った胴の）三線を弾く。それに合わせて自分も歌う。ほかの者も歌う、その歌声の中で、ああおれも生きてるんだ、生きてるんだ、といった思いがこみ上げて来るんです」と当時を知る人たちは語っております。

「うた」は生活と密着に結びついた大切なものです。

戦後、東京などではすべてがアメリカ・ナイズされ、ジャズだロックだと浮かれ騒ぐ中で、沖縄や奄美の人々は郷土の島唄を真つ先に復活し、その歌に励まされることによって再び元気に立ち上がってこられました。

尖閣諸島や普天間基地問題で苦しむ沖縄の方々は、今でも同じ気持でしょう。（近年は、学校教育では全国的に方言を使わず標準語に統一されてきましたが、どこかにこうした方言を伝える部分を残しておきたいものです）。

義太夫は言うに及ばず、身の回りには今なおすぐれた世界に誇れる古典芸能があります。祖先から受け継いだこれらの大切な文化遺産を守り育ててゆくのは、やはり私たちの務めなのではないでしょうか。

今年も義太夫協会の活動に、なにかと多くの皆様のご支援を賜りたくお願いを申し上げます。新年挨拶いたします。

### 鶴澤友路師の百歳を祝う記念CD完成

義太夫協会保存音源の復刻CD第一弾！

心中紙屋治兵衛 河庄の段

竹本土佐廣（演奏時八十八歳）

鶴澤 友路（演奏時七十四歳）

一九八六年一月 国立演芸場ライブ盤

二一〇〇円（税込）

お申し込み、お問い合わせは義太夫協会まで

### 竹本駒之助

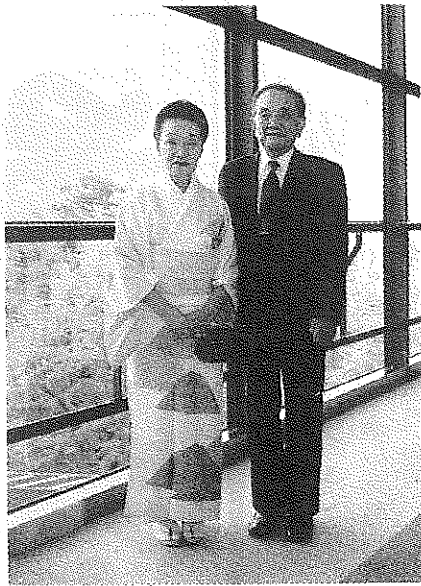
#### 第61回 神奈川文化賞受賞

この文化賞は、神奈川県と神奈川新聞が共催で実施し、毎年神奈川の文化向上発展に尽力した、個人及び団体に対して贈呈している賞です。

女流義太夫として伝統芸能の普及に貢献した一というのが受賞理由で、駒之助は無形文化財分野での受賞となりました。

昨年ほ他に、学術・文学・芸術の各分野から一名ずつ選出されています。

贈呈式は、昨年十一月三日に神奈川県民ホールにて、他のスポーツ賞等の受賞者と共に、関係者及び一般招待者約一五〇〇人が見守る中、盛大に行なわれました。



受賞式にてご主人と

### 平成24年秋の叙勲

竹本土佐子が旭日双光章を受章

「受け継いで、長くやって来た伝統芸能を次にどう引き継ぐか。改めて責任を感じている」と、土佐子。23年の綾之助に続き、同章を受章しました。

十一月九日には、国立劇場での伝達式の後、皇居へ参内。ご主人と共に天皇皇后両陛下に拝謁する栄誉に欲しました。

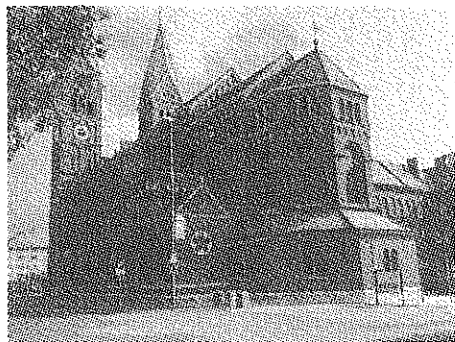


### ひとみ座乙女文楽スロベニア公演

昨年10月13日、東欧のスロベニア第二の都市マリボルにて乙女文楽公演が行われ、義太夫協会より竹本越孝・竹本越春・鶴澤寛也・鶴澤津賀榮の四名が参加しました。

「義経千本桜道行」「義太夫節の解説」などのプログラムで大好評を博しました。

マリボルは小さな美しい街で、人々は穏やかで親切、お料理も素材を活かした薄味で大変おいしかったです。



マリボルの教会



楽屋にて

通訳のペトロさんは、スラブ系イケメン。筑波大学で三島由紀夫を研究なさっていたそうです。日本には8年間いらしたとかで、とても上手な日本語でした。

### 江戸糸あやつり人形座の学校巡演

江戸糸あやつり人形座が、平成二十四年度の文化庁による「次代を担う子ども文化芸術体験事業」で、大分県・宮崎県・鹿児島県内の十七校を巡る公演に、竹本綾之助・竹本綾一・鶴澤三寿々・鶴澤津賀榮・鶴澤弥々の五名が参加しました。

二校を除くと、全校生徒数が二〇人弱で、何校か合同で鑑賞したり、PTA・地域の人々が観に来て下さっても、百人になるかならないかの公演でしたが、皆さんとても熱心に鑑賞して下さいました。

公演内容は、人形の舞踊「三番叟」(テープ演奏)、義太夫演奏で「橋弁慶」、創作話「たのきゅう」(セリフは人形遣い)と、三本立ての構成です。

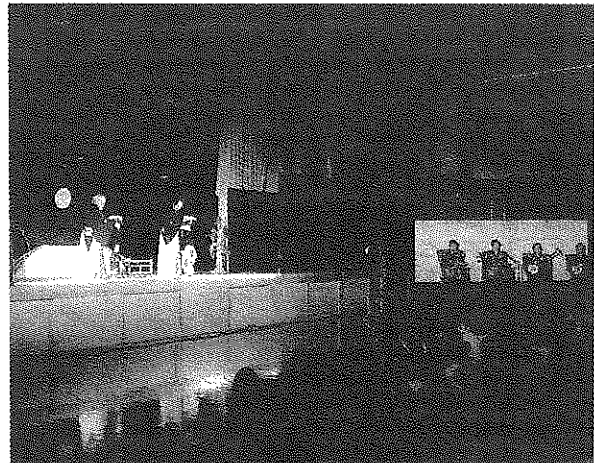
「たのきゅう」では、生徒代表の二人が、『めざし』といわれる人形を操り舞台に参加するのですが、奄美大島では、南海日日新聞に、その時秋季キャンプに来ていたプロ野球球団のDeNAベイスターズと同じくらいの大きな記事になりました。

三週間に及ぶ学校巡演でしたが、どの学校の生徒も礼儀正しく、廊下ですれ違う際、「こんにちわ」「ありがとうございました」と、元気よくあいさつをしてくれましたので、とても嬉しく思いました。  
(竹本綾一)

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、制作修理 その他、各流三味線及び付属品の御注文承ります。



〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14  
TEL/FAX 03-3466-2156  
P.H.S 070-5457-5687  
kimura-wanoshirabe@nifty.com



謹 賀 新 年

地域と共に歩む 不動産賃貸業

株 式 会 社 才 一 夕 力

代表取締役 渡 辺 康 成  
常務取締役 高 山 早 苗  
専務取締役 渡 辺 貞 稔

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31-3 F

TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684

## 〈シリーズ人物像〉

## 竹本駒之助 編 第五回

越路師匠は、女の人の稽古をなさる方ではなかったのですが、当時の師匠よりずっと格が上であった若大夫師匠が自ら私の稽古を頼みに来られた、ということは大変なことであったのでしよう。私の稽古を引き受けて下さいました。

その頃は因会と三和会が分裂していた時分で、越路師匠は三和会でしたから、公演の殆どは巡業でした。そこで、旅から帰ってみえたら師匠がお葉書を下さるのですが、そこには何日の何時に来るようにとだけ書いてあるのです。その指示に従って、心齋橋のところにある三津寺さんの近くに稽古をしていただきに行きました。本当にきっちりしている師匠でした。

難しいものだけれど、僕が自分で疑問を抱いたり考えたりして、ああこうやな、と思えたやり方を君に教えてあげるから、僕が務めてすぐのものだけれど覚えておくように、と仰有って私に最初に教えて下さった大きな作品は、十種香です。

これは本当に音遣いがとても難しく、もう最初の「臥所へ」から難しいんです。で、師匠の稽古では、このフシは基本はこう行くのだけれど、切場になったらこういう行き方をするので、といったことを丁寧に教えて下さったのです。

フシ落ちなども、自分で分からないなりに今まで覚えたやりかたで言いますよね、すると、そう覚えているか、これは本当はこう行くんだ、と音の通り方をきっちり直していただきました。ああなるほど、こうでなかったら自分の疑問に思っていたことが解けない、と思ひ、まさに師匠が神様のように思えました。

まず自分の思うとおりにやってみますでしよう、すると、君はどうしてここで切ったのか、それはどういう意味で切っているのかと尋ねられるわけです。僕はここで切っているけれど、君は違うところで切った、それはどういう意味でそこで切るのか説明してみなさい、と。もし説明できないのやったら止めなさいということなのです。

怖い稽古でしたよ。一度言われて会得が出来ないようやったら、分かるわけがない、何遍も言わへんで、と一遍しか仰有って下さいませんから。

独り言はこういうつもりで、独り言で言うけれど、しかし言わなかったら芝居にならないから、けれど相手が出たときにはこう言う、など、本当に細かく厳しかったです。きっちり師匠の通りに言うことが出来ないといけないうと思ひましたので、とっても怖かったですけれど、非常に有難かったです。

何しろ、一度で理解するには必死で目を見て、口の開け方から音の行き方など、もう何から何まで全く同じに出来なければ通らないと思ひました。

こうした稽古をすると、浄瑠璃の行き方の作品ごとのパターンを会得することが出来るのです。これはあの行き方だな、今度はこっちの行き方だな、など、おのずと感じることが出来るようになって来ます。すると字配りなども含め、だんだん逐一言われなくても分かるようになってくる。これは、たとえ同じように教わっていても取れる人と取れない人がいますね。

たとえば師匠は、ここで文字を言うとき三味線がここに入ってくる、だからこの文字をあそこへ持ってきて、三味線のところの文字をカラにしたら、かえて文字が繋がって聞こえて、読んで字の如しにならないか、それで出来る限り文章が分かるように言いたいなと、そういうことを仰有るわけです。

だから今、どこが地合やら節やら、節も地合も色も地色もない、フシ落ちの字配りも変そんな説明できない浄瑠璃を語ってしまったはいけないんですよね。太夫としての心得はきちんとなんといけない。せめて決まった字配り、文字の言い方、音の通り方、節付けを守らないと、聞いていても様子が浮かばず、意味が分からない、つまらない浄瑠璃になってしまうわけです。

男の方でも、なかなかそこまで丁寧に教えていたたくことは出来なかったはずでしょうから、私が早い段階からそのように教えていただけたことは、本当に有難く、幸せだったと思ひます。

ほんに気がメくりヤス(十二杯目)

鶴澤慎治

去る十一月、初めて兵庫豊岡の永楽館という芝居小屋に伺いました。

この豊岡という所は、史実の大石内蔵助の妻りくの出身地という事で、今年の演目は「実録忠臣蔵」大石妻子別れ。いわゆる「忠臣蔵」ものの中でも新しく、かつては京阪の劇場でもよくかかっていた演目とのことですが、今回義太夫部分を書き足して復活上演するということになり、その作曲と演奏を仰せつかりました。

例によって唐突な話で恐縮ですが、世の中には「演歌ジェネレーター」「J-POPジェネレーター」といって、典型的な演歌やJ-POPの歌詞を自動生成するものがあるらしいですね。同様に、パソコンの作曲支援ソフトにも、ジャンル毎に、その典型的なメロディーを自動生成する機能があります。

何が言いたいかと申しますと、つまり歌舞伎の義太夫狂言の場合も、話の展開に従って、幕開きから段切れまでのポイント毎に、典型的な詞章のパターンが存在し、それに従って脚本が書かれていけば、それに沿った節付けと振り付けが可能：というわけで、今回の「妻子別れ」の場合も、簡単に言えば、仇討ちの本意を知られないように遊興三昧と見せている大石が(やはり仇討のため父の元に残る主税共々)母や妻に罵られながらも、身内に難儀がかからないように妻と二人の子供を

離別する：という話の中で、「遊興三昧の大石への母千尋院の意見・折檻」「りくの嘆き(クドキ)」「母親に本心を明かすことが出来ない主税の葛藤」「離別状と遺品を与える」「出立・別れ」「見送って手を合わせ許しを乞い、本望成就を誓う」といった、忠臣蔵はもちろん、他の狂言でもよく出てくるシチュエーションに用いられるモチーフを、あの手この手で趣を変えて入れ込んでいく作業でもって作っていくわけです。その中でもメリヤスは重要な役割を果たしますが、今回は別れの場面ということで「アサドテ」をベースにしたメリヤスを生成しました(笑)。

メリヤス「アサドテ」は、地歌「朝戸出」の曲中の合の手をメリヤス化したもので、芝居では引窓や壺坂など、さすが元の曲が追善曲だけあって、嘆きや愁嘆の中でも「別れ」を予感させるような場面によく合います。

今回のような復活上演や新作の際には、あらかじめここで何々のメリ、と決めておく場合もありますが、稽古に入ってから「じゃあここはメリで」という話になることも多々ありまして、その場合に(私の場合大変貧弱な)頭の引き出しから、その場に似つかわしいメリを引っ張ってきます。

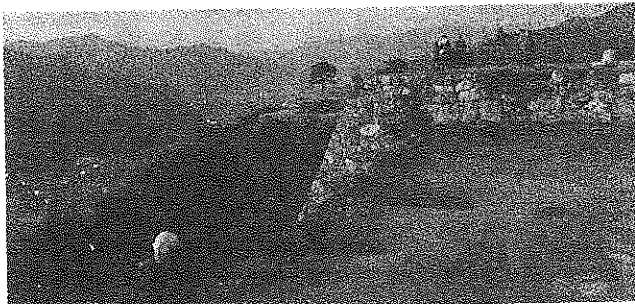
〇〇ジェネレーターの話をもしましたのはこのこととして、そういうものもあつたら、振り付けや演出の方は(もちろん自分も)重宝するに違いない：実際にその「J-POPジェネレーター」で生成されたサンプル歌詞を見ると、この私でもメロディが付けられるの

では、というぐらい「ありそうな」作品が出来上がります。

その「ありそうな」でもって「アサドテ」なのですが、そこはやはり「この作品ならでは」の何かを加えることが大事になってきます。

今回の場合は、ほとんど全ての節付作業を終えてから見ることに出来た附帳にあった、史実の内蔵助が「大石うき」のペンネームで作詞した地歌「里景色」を引いた一節に付けられていた節の感じを踏まえつつ、「本望を遂げるため押さえ込んでいた思いが、妻子が出て行った後に爆発」というイメージで生成(くどい：)しましたが、出だしはもちろん「チントッチン、チン」(笑)。

人が考えなくても勝手に出来てしまう「なんとかジエネレーター」義太夫や歌舞伎の世界でも、実際、笑い話では済まなくなる日が来るかもしれないが、私は出来るだけ「使う」側ではなく「作る」方に居たいと思うのでした。



富岡のとなり朝来にある竹田城跡にて。雲海の中に浮かぶ天空の城として有名。高倉健主演「あなたへ」のロケ地になったこともあり、夜明け前から大変な人出でした。

協会の動き

12年7月より  
12年12月まで

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

- 7月1・2日「じょぎ」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 7月7・8日 益田糸操りワークショップ  
於島根県芸術文化センター
- 7月15日 素浄瑠璃の会  
於竹隆庵岡埜
- 7月20日 女流義太夫演奏会  
「生写朝顔話」ほか 於日本橋亭
- 7月21・22日 益田糸操りワークショップ  
於島根県芸術文化センター
- 7月22日 教員免許状更新講習  
於国立劇場
- 7月28日 義太夫教室第65期初級閉講式  
於豊川稲荷文化会館
- 8月1・2日 ぎだゆう座 二日間  
於上野広小路亭
- 8月4・5日 益田糸操りワークショップ  
於島根県芸術文化センター
- 8月14日 備品部会  
於本郷稽古場
- 8月17日 女流義太夫ミニコンサートV  
於ほり川
- 8月18日 一日体験教室  
於豊川稲荷文化会館
- 8月20日 義太夫ワークショップ  
於茅ヶ崎市立浜須賀中学校
- 8月21日 女流義太夫演奏会 若手勉強会  
於国立演芸場

- 8月25日 資料部会  
於本郷稽古場
- 9月1・2日 「じょぎ」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 9月8日 女流義太夫まるごと一段！  
於木馬亭
- 9月15日 義太夫教室第65期中級開講  
於豊川稲荷文化会館
- 9月15日 公演部会  
於千歳船橋稽古場
- 9月16日 益田糸操り人形公演  
於島根県芸術文化センター
- 9月16・17日 益田糸操りワークショップ  
於島根県芸術文化センター
- 9月17日 資料部会  
於本郷稽古場
- 9月20日 女流義太夫演奏会  
「傾城恋飛脚」他 於日本橋亭
- 9月22日 第五回 竹本土佐恵の会  
於内幸町ホール
- 10月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 10月2日 編集部会  
於協会事務所
- 10月11日～16日 乙女文楽スロベニア公演  
於マリボル
- 10月13日 第十回京の会  
於自由学園明日館
- 10月14日 資料部会  
於本郷稽古場
- 10月15日 日本芸術文化振興基金説明会  
於日本青年館
- 10月22日 女流義太夫演奏会  
「伊賀越道中双六」ほか 於国立演芸場
- 10月27日 第九十六回 大日本素義会  
於鳥越神社白鳥会館

- 11月1・2日 「じょぎ」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 11月4日 祖先祭  
於両国回向院
- 11月7日 第16回竹本越孝の会  
於内幸町ホール
- 11月20日 女流義太夫演奏会  
「増補忠臣蔵」ほか  
於日本橋亭
- 11月21日 編集部会  
於協会資料室
- 12月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 12月17日 女流義太夫演奏会障がい者の為の  
特別公演 「仮名手本忠臣蔵」  
於日本橋亭

掲載広告大募集！

義太夫協会会報では、会報に掲載していただける広告を募集しております。会報の発行は一月と七月の年二回を予定しております。

毎号の継続的な掲載ばかりでなく、一回限りの掲載ということでも結構です。どうぞお気軽に義太夫協会までお問い合わせ下さいませ。

今後の予定

1月12日(土)

「ぎだゆう座」初春公演

萬歳 触れ太鼓 相撲甚句 車曳

於お江戸両国亭

1月20日(日)

女流義太夫演奏会

於日本橋亭

2月26日(火)

女流義太夫演奏会

伝承者研修発表会

於国立演芸場

3月9日(土)

義太夫教室OB演奏会

於スペースFS汐留

3月17日(日)

第十回素浄瑠璃の会

午後2時開演

於お江戸日本橋亭

3月20日(水)

女流義太夫演奏会(昼公演・午後一時開演)

於日本橋亭

3月23日(土)

都民フェスティバル

第43回 邦楽演奏会

第1部 伊勢音頭恋寝刃 油屋の段

竹本駒之助、鶴澤津賀寿

第2部 義経千本桜 道行

竹本綾之助、鶴澤寛也ほか

於国立小劇場

4月28日(日)

第十回はなやぐらの会

於紀尾井小ホール

平成25年 女流義太夫演奏会

年 月 日	曜日	国立演芸場	日本橋亭
25年1月20日	日		○昼
2月26日	火	○	
3月20日	水・祝		○昼
4月23日	火	○	
5月20日	月		○
6月25日	火	○	
7月20日	土		○昼
8月21日	水	○	
9月20日	金		○
10月22日	火	○	
11月20日	水		○
12月20日	金	紀尾井小ホール 午後7時開演	

※日本橋亭昼公演は午後1時開演  
 ※国立演芸場は午後6時30分開演  
 ※平成25年12月公演は、紀尾井小ホールに於いて午後7時開演になります。

〈寄付〉

大日本素義会様

三万円

〈寄贈品〉

野澤 松也様 三味線上がり糸

〈寄付金に関するご報告〉

協会運営に関する当協会からの寄付のお願いに対し、平成24年12月末日迄に102件、207万円のご篤志を頂戴いたしました。

厚く御礼申し上げます。引き続き当協会へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ぎだゆう座初春公演

平成25年1月12日(土)

お江戸両国亭 1時半開演

入場料1500円

萬歳・触れ太鼓・相撲甚句・車曳

協力(財)日本相撲協会

両国相撲甚句会・森江宏太

開演前に清酒の振舞いをさせて頂きます。  
 御来場お待ち申し上げております。

〈おすすめの本〉

義太夫節や文章に関係のある本で、比較的新しいものをご紹介します。どれも研究書ではなく、楽しみで読むタイプの本です。

『浄瑠璃を読もう』 橋本治(新潮社) 2100円

画期的浄瑠璃読み解き。「お軽は現代の新人OL」「巴御前は陽気なマッチョ系の美女」

『星と輝き花と咲き』 松井今朝子(講談社)

1575円 娘義太夫のスーパーアイドル、初代竹本綾之助。芸に生き恋に生きの傑作長編。

『あやつられ文楽鑑賞』 三浦しをん(双葉文庫) 1500円

文楽初心者の著者の突撃エッセイ。ついに義太夫にどっぷりハマり、文楽小説『仏果を得ず』(双葉文庫) 630円 を書くまでに。

『仮名手本忠臣蔵』 金原瑞人翻案・佐竹美保

絵(借成社) 1260円 子供も大人も楽しめる、お軽の軽妙な一人語りによる現代語訳。

『三毛猫ホームズの文楽夜囃』 赤川次郎(角川書店) 1365円

文楽ファンの著者と、文楽の錚々たる師匠方との対談が秀逸。同じ著者で『赤川次郎の文楽入門 人形は口ほどにも

のを言い』(小学館文庫) 560円

おまけ『歌舞伎絵巻 全5巻』仮名手本忠臣蔵・義経千本桜・菅原伝授手習鑑・国性命合戦・妹背山婦女庭訓 橋本治文・岡田嘉夫絵

(ポプラ社) 各1680円 児童向け絵本といえど、内容もみっちり、絵は美術書のように豪華絢爛。大人のコレクションには是非どうぞ。

(鶴澤寛也)

私の♡



コメント

梅丸丸だぜい。特技はシャア!と頭突き。ワイルドだろお? (こまじ)

【編集後記】

○盛りだくさんの記事、いかがでしたでしょうか? どうぞご感想・ご意見などお寄せ頂ければ有難く存じます。(K)

○今回、広告を頂くという初めての試みを行いました。これからの時代に対応し、且つ皆様に魅力を感じて頂けるような会報を目指します。(S)

○今年は歌舞伎座も新開場することですし、古典芸能全般、より一層盛り上がりつつ行けたらと存じます。皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(K?)

○新年おめでとうございます。皆様にとって巳(実)のある一年となりませう。お祈りしています。(Y)

**謹賀新年**

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭      お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭      新宿永谷ホール